

魚類の生活色に就いて（第16）

黒田長禮

On the Life Colours of Some Fishes—XVI.

Nagamichi KURODA

私は1964年夏家事上の都合で満3ヶ月を沼津市志下の海浜に過ごした。それでその間に採集した魚類中で今迄に余り記述されなかつたと思われるもの20種の生活色について述べる。

(215) ホテイエソ *Photonectes albipinnis* (DÖDERLEIN). 1964年10月13日志下海岸で全く新鮮の状で波打ち際に横わつたものを入手した。思うに底曳網に入つたものを漁夫が捨てたのであつたろう。全長240、体長230、体高28 mm全くブヨブヨしたものであつた。体は黒色に多少淡褐のマーブル斑があり(田中, 1933では紫黒色とある)、触鬚は黒色、眼下に三角類似斑の桃色(発光器か)があり、各鰓は帶黒灰色である。D.とA.は対在し D. 13, A. 15, V. 7, 触鬚36 mm. P.はない。発光器は体側下方に縦列に並び美しい濃紫色であるが目立たない。全長は田中(1933)及び蒲原(1953)では共に300 mmに達すという。



第1図 ホテイエソ 志下海岸拾得
全長 240 mm

(216) チョウチョウエソ *Synodus macrops* TANAKA. 1964年10月13日大瀬～清水間で漁獲の2点(全長175, 190 mm)を渡辺始より入手。頭は暗桃灰色、背面は淡灰色で、体側から腹方は銀白色、それに暗灰色の凡そ6～7個の多くは丁字又はX字形の斑を有する。各鰓は淡褐色。虹彩は黄灰色で内輪は暗青色。深海性。

(217) サンゴイワシ *Neoscopelus microchir* MATSUBARA. 1964年9月16日伊豆田子方面(秀峰丸一阿部博士紹介による)漁獲幼1点(全長110 mm)、同年9月26日と29日大瀬沖漁獲2点(全長170, 165 mm)を渡辺より入手。体の背面、各鰓は美珊瑚色、腹方は銀白色で、発光器は白銀色で頗る目立つ。蓋も銀白色。虹彩は白色。この種はソトオリイワシ(*N. macrolepidotus* JOHNSON)に比し平均上小形である外、詳細なる違いは松原(1955: 248)に明記される。私の蒐集品中には1937年4月17日大瀬沖の1点(全長190 mm)が最大で、その他はソトオリイワシの2点(210, 235 mm)があり、共に中沢蒐集品で恐らく蒲原(カンバラ)辺の深海産があろう。

(218) オイカワ *Zacco platypus* (T. & S.). 1964年9月13日福本芳夫が沼津市門池(カドイケ)で釣獲の雄3点(全長81.5～86 mm)を入手した。生活色は普通の全長200 mm程の雄成魚と同色で、婚姻色を呈して誠に立派である。P.とV.とは殊に美しいオレンジ色であり、

顔は著しく黒い。即ち今回的小魚は陸封型の為めかと思う。この例は普通のことであろうか?

(219) ホラアナゴ *Synaphobranchus affinis* GÜNTHER. 1964年10月15日秀峰丸の大瀬沖獲物中から1点(全長550 mm)を入手した。その後も見たので余り稀れとは考えられない。一体に一様な紫灰色で、虹門から前方の側線孔は28~30個を算えた。

(220) イケカツオ *Chorinemus orientalis* (T. & S.). 1964年10月5日志下の小曳網に入つた物3点(全長55~59 mm)を入手。背面はオリーブ色(青色でない)、腹方は銀白色、D.とC.は帶灰色で、先端が擬黒色、P. V. 及び A. は殆んど無色、僅に黄を帯びる。虹彩は銀白色。当志下海岸では大形のものは見たことがない。

(221) ヤセムツ *Epigonus robustus* (BARNARD). 1964年9月26日大瀬裏沖の獲物2点(全長130, 135 mm)を渡辺より入手。体鱗は附着性で、一様な暗灰色、腹方も一様な灰白色、上下唇が墨色。各鰓は目立つた灰白色で、P. と C. は淡灰色。虹彩は暗褐色、瞳子は黒い。

(222) ハゲヤセムツ *Epigonus atherinoides* (GILBERT). 1964年9月27日大瀬裏沖の1点(全長142 mm)を渡辺より入手。体鱗は剝離性が強く、一体に淡薄墨色であるが、鱗の剥脱部が多くその処は白味となる。顔側と鰓蓋は帶青光銀色、D. は灰黒、C. は薄墨色、P., V., A. 及び C. は殆んど無色。喉から腹方は白色、虹彩銀白色で瞳子は透明である。

ヤセムツと異なる点は鱗の剝離性であること、眼の大なること、虹彩及び瞳子の色の違うこと、IID.の第1棘が著しく短いこと、下顎の下方突角をなすこと等で区別し易い。図は松原、1936, 1955, 岡田・松原, 1938 参照。

(223) ソコアマダイモドキ *Owstonia grammodon* (FOWLER, 1934), Syn.—ヤマトソコアマダイ *O. japonica* KAMOHARA (1935).

1964年9月27日大瀬裏沖及び10月6日大瀬~清水間で漁獲の2点を渡辺始より入手し、又10月28日大瀬沖の1点(秀峰丸)をも入手した。始めの2点は新鮮色のもので共に同色を呈していた。体はピンク色美しく、腹方色が淡い。各鰓は珊瑚色、V. だけは紅白色。顔側も紅白



第2図 ソコアマダイモドキ 大瀬~清水間漁獲 全長 360 mm

色、喉から腹は擬白色。上下顎の基部即ち上顎前骨と上顎主骨間の膜に太い黒紋があり、下顎骨の膜にもこの1小黒点がある。(大型の方ではこの下顎の斑はない)。スミツキアカタチを想起させる。頬には鱗がある。虹彩珊瑚赤色。

測定:

番号	全長	体長	体高	D.	A.	C.	V.	P.	鱗列	側線鱗
1285	180	140	33	III, 22	10	16	I, 5	21	65	59
1307	360	275	84	III, 20	I, 14	15	I, 5	20	66	60
1347	210	160	41	III, 21	I, 14	17	I, 5	21

上表の内で NO. 1285 の A. 10 とあるのは1棘4軟条が何等かの原因によつて生じていないものであり、よく見ると僅に痕跡だけはある。かかる例は甚だ稀な現象ではないであろうか。

(224) イカナゴ *Ammodytes personatus* GIRARD. 1964年9月16日志下海岸に比較的多く捨てあり、この沖合で獲られたものらしい。小形のもので全長98~115 mm(9点調べ)位である。頭は暗色、側線より上方は淡オリーブ灰色(成魚の図に見る様に暗色でないのは褪色の為めか幼魚の為めか)、側線から下方は銀色。P. 淡色、C. 淡灰色。尾柄部の終りに暗灰色の1小横帶がある。虹彩は黄銀色。

(225) イレズミガジ *Lycodes caudimaculatus* MATSUBARA. ゲンゲ科の魚で、1964年10月15日に1点(全長165 mm)と10月28日に1点(全長175 mm)を大瀬沖(秀峰丸)獲物中から入手した。新鮮色ではないが液漬直後のもの。体は灰色、有斑の白色部が尾端にあり、D. とA. の縁線が灰黒色、鰓膜、鰓蓋後縁及びP.の端部は帶紫灰色で大に濃色。虹彩は橙黄色。

(226) タナカカワアナゴ *Eleotris pisonis oxcephala tanakai* TOMIYAMA. 1964年10月25日沼津市西島町狩野川で福本芳夫釣獲の成魚1点入手した。一体に帶紫灰黒色で濃く(頭



第3図 タナカカワアナゴ 沼津市狩野川(西島町)釣 全長190 mm

上に淡色部はない), D., A. 及び C. は淡黄褐色乃至バフ色の V 字形や波形の縦線がある。P. は淡オリーブ黄色に灰黒色の小斑がある。V. は暗濃灰色で殆ど無斑。体腹面は灰バフ色に微小斑を密附する。

全長 190, 体長 155, 体高 32.5 mm. ID. VI; IID. I, 9; A. I, 8; P. 18; V. I, 5. 側線鱗 52, IID. 後端から C. 中央条の基部迄 15 鱗。即ち富山・阿部 1958 の 50 と 15 鱗型たる *tanakai* に一致する。因にカワアナゴの幼魚の記事は「魚・雑」8 (5-6): 115 (1962) にある。

(227) キツネダイ (イノシシ) *Verreo oxycephalus* (BLEEKER). 1964 年 9 月 29 日大瀬沖の 1 成魚 (全長 169 mm) を渡辺より入手。体の地色は淡紅色, 腹方は白味から黃味 (黃白色) である。体側に約 15 条の淡紅色の細縦線がある。又体側に大形の濃紅色が 14 個位が 3~4 縦点列をなして存する。D. の黒斑は第 6 の軸と第 7~8 にあり, D. は黃色。虹彩は淡紅色に黃輪がある。その他の点は富山・阿部 (1958) の図の通り。

(228) テンス *Iniistius dea* (T. & S.). 1964 年 9 月 4 日桃郷～志下沿岸のゴロビキ綱の獲物中に幼魚 1 点 (全長 100 mm) を入手。体の地色は擬白色で, 栗赤色の 6 横帶 (第 3 帯の上方に 1 黒点) があり, それに極小なルリ色点を散布する。D. は淡橙色に 2 黒斑があり, 糸状棘は橙灰色。P. は淡色, C. は淡色に暗色を帯び, V. は黒色, そして A. は大部分が黒く, 後方は橙黄色である。成魚より色彩が美しく斑が多い感じがする。

(229) ヒシダイ *Antigonia capros* LOWE. 1964 年 10 月 13 日大瀬～清水間で漁獲の 1 成魚 (全長 160, 体長 140, 高さ 123 mm) を渡辺より入手。体は紅色, 顔側と腹方は擬白色。D. 棘は淡赤色, D. 軟条は帶黃色で先端は赤色。A. 棘は紅赤色, 軟条は帶黃色で先は赤い。P. は黃赤色。V. 棘は紅白色で, 軟条は赤色。C. は帶黃色で先端が少し赤い。虹彩は黃赤色。

(230) メバル *Sebastes inermis* CUV. & VALENC. 1964 年 9 月 30 日原～清水間で獲られたクロメバル型の物 1 点 (全長 98 mm) を渡辺より入手。体は淡青灰色の地に淡褐色の小点凡そ 25 位を散在する。虹彩上方は暗褐色, 下方は銀白色。D. と C. は暗青褐色, P. は美桃色, V. と A. は淡桃色で先端が暗色である。本種は志下には少ない。

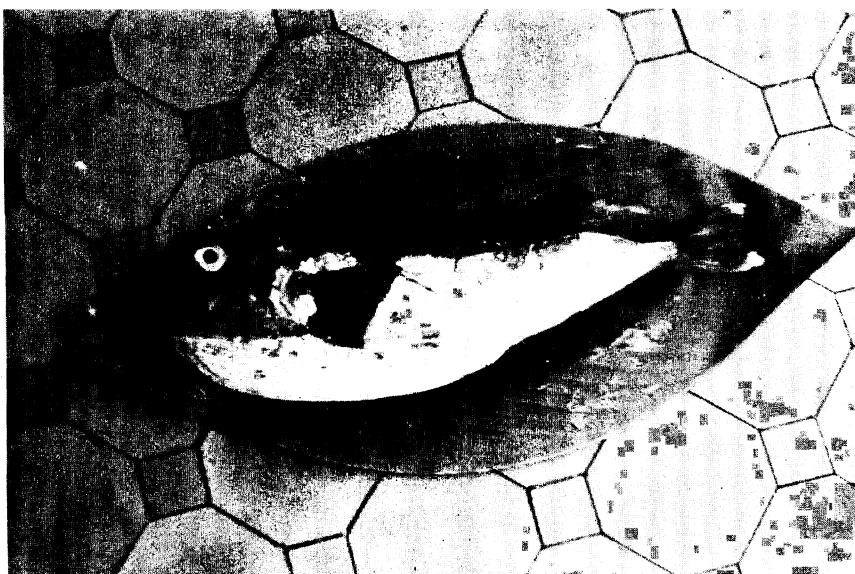
(231) キチジ *Sebastolobus macrochir* (GÜNTHER). 1964 年 10 月 6 日大瀬～清水間で獲られた 1 点 (全長 150 mm) を入手した。体は全体に紅色であり, 鱗は剝離性である。D. XVI, 9; A. III, 5; P. 21; V. I, 5. 鱗列凡そ 33。

(232) アブオコゼ *Erisphex potti* (STEINDACHNER). 1964 年 10 月 3 日大瀬沖漁獲 1 点 (全長 107 mm) を渡辺より入手した。D. XII, 13; A. II, 10; V. I, 2. 体の地色は灰バフ色に一体に紫灰色の斑紋がある。全ての鱗 (但し P. は淡褐) は擬黒色を呈するが, これは暗色斑紋がある為であり, 基部は帶オリーブ色。体表面にはビロウド様小棘状物がある。虹彩帶黃に淡色斑がある。

この種は駿河湾から第 2 回目でその第 1 回は「動・雑」64 (8): 261~262, 2figs. (1955) 参照。

(233) サバフグ *Lagocephalus lunaris* (BLOCH & SCHNEIDER). この種は駿河湾には普通であるが 1964 年の夏から秋にかけては志下にて普通色のものは見ることがなかつたが, その代り次に記載する様な色変型 (?) のみを採集又は目撃した。

背面はオリーブ濃色又は深オリーブ黒色, 顔は帶黃オリーブ色, 体側は淡黃緑色か鮮黃銀色。腹は白色。D. と P. がオリーブ黒色, A. は黃白色か淡オリーブに黒斑を混じる。C. は擬黒色かオリーブ黒色で, 両葉の先端のみ白い。虹彩は黃白色のものと青銀色のとがある。P. が截形に近い点と P. と D. が共に黒いことが目立つ。



第4図 サバフグ色変型 志下拾得 全長 280 mm

採集又は目撃個体

月 日	成 幼	全 長	産 地	備 考
9. viii.	成	凡 250	志 下	目撃, 波あり入手不能
? viii.	成	乾いたもの	志 下	同 上
28. viii.	成	280	志 下	入 手 黒 田 採
3. x.	成	64	千 本	入 手 渡 辺 より
8. x.	幼	295	桃 郷	入 手 黒 田 採
30. x.	中	165	千 本	入 手 渡 辺 より

以上内の千本の中幼魚は曳綱に入ったもの。その他は海岸に打揚げ又は頭のみ捨てあつたものである。これは明らかに漁夫が漁獲(多分シラス綱に混入)して後、捨てたものと、頭を捨て肉を食用にしたことが想像に難くない。他の雑魚の食用にした残頭は海岸に毎日捨てる惡習があるからで知れる。

目下この標品については阿部博士に精密検査を依頼中でありその結果を待っている。

因に阿部氏(1960: 魚雜 8 (1-2): 3-6)はサバフグを *L. lunaris spadiceus* (RICHARDSON) とし、ドクサバフグに *L. l. lunaris* (BL. & SCH.) を当てている。

(234) ヒゲ(トウシン) *Coelorhynchus japonicus* (T. & S.). 1964年9月29日大瀬沖漁獲1点(全長285 mm)を渡辺より入手。体は帶紫暗灰色で、腹は帶青色。D., P., V. 及び A. は薄墨色で目立つ。鱗には5隆起線が扇形にある。虹彩は擬白色に褐色を帯びる。

次に記す種類は駿河湾新追加でその内の新鮮のものについての生活色は「動雜」74 (3): 88-90, 1965に掲出されている。即ち

ボライタチウオ *Myoxocephalus japonicus*

ミサキゴチ *Calliurichthys numeri*

トビヌメリ *Callionymus beniteguri*

ナガチゴダラ *Physiculus inbarbatum* (液漬色)

ザラダラ *Coryphaenoides asper*

尙ほ今回珍種イトヒキイタチウオ *Homostolus japonicus* MATSUBARA (駿河湾戸田沖, 土佐沖から記録) を大瀬沖 (1964年10月15日) から獲れたが、液漬後で大いに褪色していく生活色は書けない。

Résumé

The part 16 of this article contains descriptions of life colours of 20 species (nos. 215 to 234), all of them have been collected in the Suruga Bay in 1964. Some interesting species are *Photonectes albipinnis*, *Owstonia grammndon*, *Lycodes caudimaculatus*, colour variants of *Lagocephalus lunaris*, etc. And 5 other new additions to the Bay are listed. Their detailed notes were appeared in the Zoological Magazine 73 (3): 88-90 in 1965.